

谷ノ台遺跡

谷ノ台遺跡は袖ヶ浦市神納に所在し、小櫃川下流域の北側台地標高約 32m に位置しています。

当遺跡は主に市道 0102 号線（平成通り）建設工事にもない、平成 4～6 年度にわたり調査された区域です。

発見した生活跡は弥生時代後期から古墳時代前期（約 3 世紀から 4 世紀）の住居、弥生時代中期から後期（紀元前約 1 世紀から紀元 3 世紀）の方形周溝墓、古墳時代後期の古墳（約 6 世紀）、奈良・平安時代方形区画墓・土壇基（約 9 世紀から 14 年前）、江戸時代後期（約塚などがあり、長い時代にわたり墓地の性格が強い遺跡ということがわかりました。

出土した主な生活道具には、壺・甕・鉢・器台・高坏・陶器・磁器・和鏡などを発見することができました。



四角溝で囲むように造られているのが方形周溝墓（奥）
円形の溝は古墳の周溝（手前）



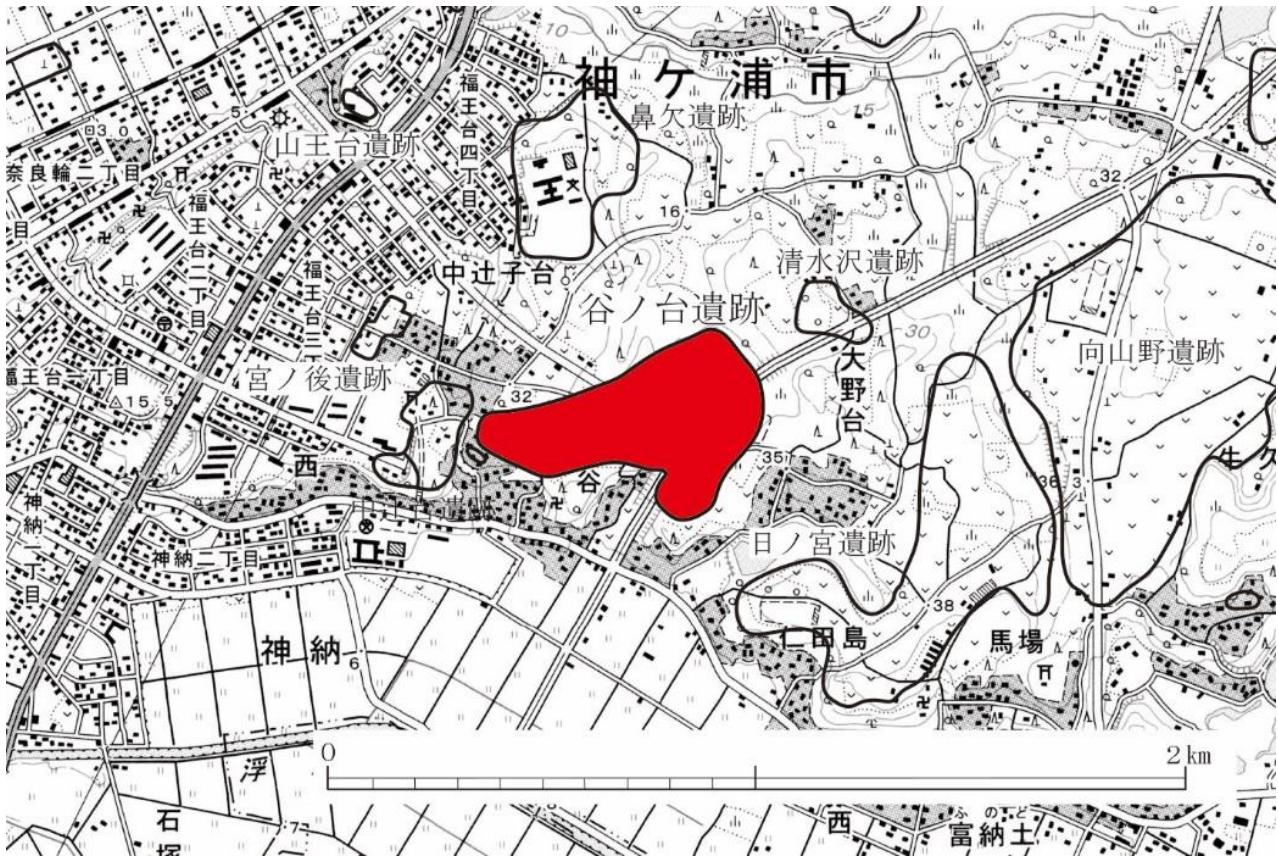
003 号住居は火災家屋です。壁際に整然と並べられた土器には、お墓で使うような意図的に^{あな}孔があけられたものもあり、^{いみ}忌避けるように放火したと考えられます。



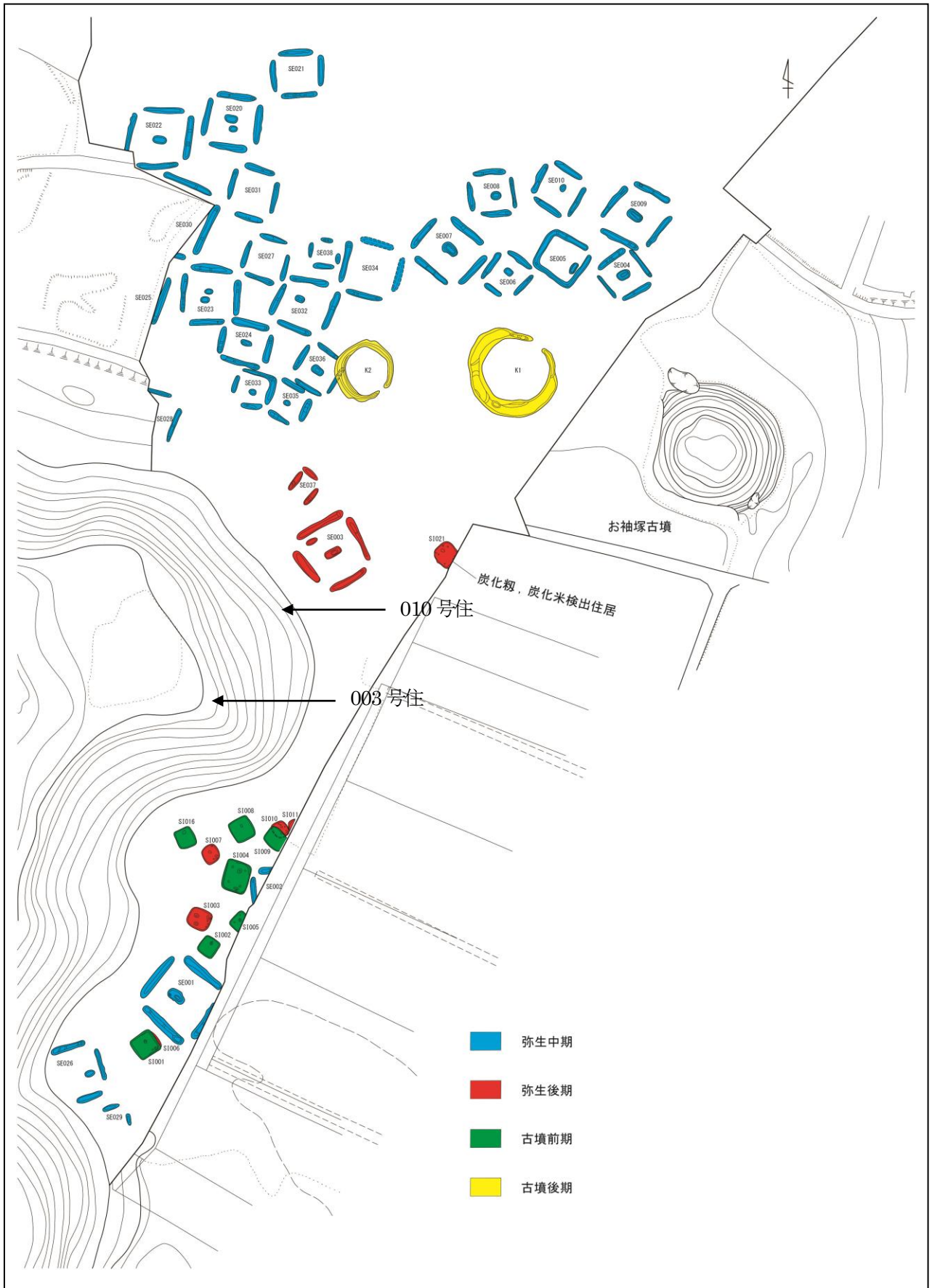
010 号住居も 003 号住居と同様に火災家屋です。検出状況も同様です。



010 号住居土器出土状況



谷ノ台遺跡位置図及び周辺遺跡分布図



谷ノ台遺跡全体図